



けやき



【学校の教育目標】
けやきのようにたくましい子

関わる大人みんな
で育てる！



関わる大人みんなで育てる！

校長 日比野 浩二

先週の4月19日(金)は、お忙しい中、授業参観及びPTA総会、学級懇談会に多数の方がご出席くださり、ありがとうございました。

さて、PTA総会の折、あいさつにおいて、今、子供たちに育みたい能力資質を『主体性』と申し上げました。この『主体性』についてもう少し付け加えますと、～自己表現・積極的な行動・自己決定力～と焦点化しております。

そして、PTA総会ではお示しできなかった“子どもの「主体性」を育むための3つの柱と10項目の絶えず見つめなおす視点”は、以下の通りです。

■温かい人間関係の構築

心理的安全性が高い環境(学校・家庭・地域)が前提

- ①心を解放できるように、聴く・反応することを通して、受け入れる姿勢でいる。
- ②自ら考える・決める・行動する機会を設けて、見届け価値づけている。
- ③よさ(持ち味、強み)や有用感をもてるような働きかけをしている。
- ④多様な価値観に気付いて、心情豊かにできるよう、学校の内外で地域や周りの人々に触れることを積極的にしている。

■探究的な活動の充実

好奇心を伸ばしたり、好きなことを見つけたりすることがきっかけ

- ⑤問いを立てたり追究意欲を高めたりするような導く問いかけをたくさんしている。
- ⑥目的意識を明確にして、その達成に向けた方法を考え・試行させる活動を仕組んでいる
- ⑦自分の行動によってよい変化(できた・わかった)がもたらされるような成功体験を積みさせている。
- ⑧学校だけで得られない知識や経験、能力を、家族や地域の人等周りに支えられながら身につくようにしている。

■子供の生き方のモデル像化

主体性がある人と接することで、学んだり活かしたりできる

- ⑨自らやりたいことをまずやる姿等を、子どもと共有する(できる)ようにしている。
- ⑩地域への愛着や担い手としての自覚を育むよう、地域や周りの人々に対するリスペクト感覚を高めている。

上記にお示ししたことを、子供たちに関わる大人みんなが日頃から意識して、子供に関わっていくことで、主体性のある人に育てていきたいと考えます。

成長期の子供たちが努力するにあたり、大人であるわたしたち自身、主体性があるのか見つめ直すことも欠かせないことではないでしょうか。今後、わたしたち大人は、子供たちが「進んで動いている。」と答えられるように生活できたのか、振り返ってみましょう。